

図書館をめぐる
現状と課題
～今後の連携に向けて～

書店・図書館等関係者における対話の場（第1回）

公益社団法人日本図書館協会
専務理事兼事務局長 岡部 幸祐

第17回図書館総合展フォーラム「公共図書館の役割を考える」来場者アンケート

（「2015年「図書館と出版」を考える 新たな協働に向けて」
一般社団法人日本書籍出版協会 図書館委員会著・編）

◆自館での選書の際、注意を払っていることがあれば教えてください。

①自館の蔵書構成 52 （回答数）

②自館の利用者像 46

③著者 14

④価格 22

第17回図書館総合展フォーラム「公共図書館の役割を考える」来場者アンケート

（「2015年「図書館と出版」を考える 新たな協働に向けて」
一般社団法人日本書籍出版協会 図書館委員会著・編）

- ◆ 選書する際に課題となっていることがあれば教えてください。
 - ・ 資料費の削減。費用が少なく、蔵書構成に偏りがある。利用者が利用する蔵書に固定されがちになっている（学校）
 - ・ 予約件数の多さにより購入する本が左右される。図書館で揃えたい資料と利用者の求める資料に相違と隔たりがある（公共）
 - ・ 高価で一般では買われない貴重な本を入れたいが、リクエストや蔵書数と予算の関係で当たり障りのない本を入れざるを得ない現状（公共）
 - ・ 利用者のリクエストに応えると長期的に読まれる本が選ばれにくい。（公共）

第17回図書館総合展フォーラム「公共図書館の役割を考える」来場者アンケート

(「2015年「図書館と出版」を考える 新たな協働に向けて」
一般社団法人日本書籍出版協会 図書館委員会著・編)

- ◆ 近隣の書店の存在を意識するときはありますか。また、書店と共同でおこなっている事例等あれば教えてください
 - ・ 図書館が近くにある本屋はつぶれない。逆に図書館が近くにない書店はつぶれていく
 - ・ 小さい書店がどんどんなくなっていくことに危機感を感じる
 - ・ 書店で見たと言って、予約する利用者がいる
 - ・ 納入に関しては、地元の書店組合を通じて購入しており、常に意識している（公共）

第17回図書館総合展フォーラム「公共図書館の役割を考える」来場者アンケート

（「2015年「図書館と出版」を考える 新たな協働に向けて」
一般社団法人日本書籍出版協会 図書館委員会著・編）

- ◆ 「新刊の一定期間貸出猶予」や「複本」についてご意見をお聞かせください
 - ・ 個人的には複本はいらない。市民の知る権利を保持しながら、より良い方法を見出したい（公共）
 - ・ 複本の購入をなるべく控え、他の書籍を購入したいが、市民の求めを無視できない。複数たまる蔵書にモヤモヤする（公共）
 - ・ 貸出猶予が設けられてもいいと思う。また、複本については制限を設けてもいいのではないか（公共）
 - ・ 貸出猶予については利用者からの大反発があると思う。複本は、ある程度セーブが必要かも。しかし利用者のニーズを考えてしまう（公共）

第17回図書館総合展フォーラム「公共図書館の役割を考える」来場者アンケート

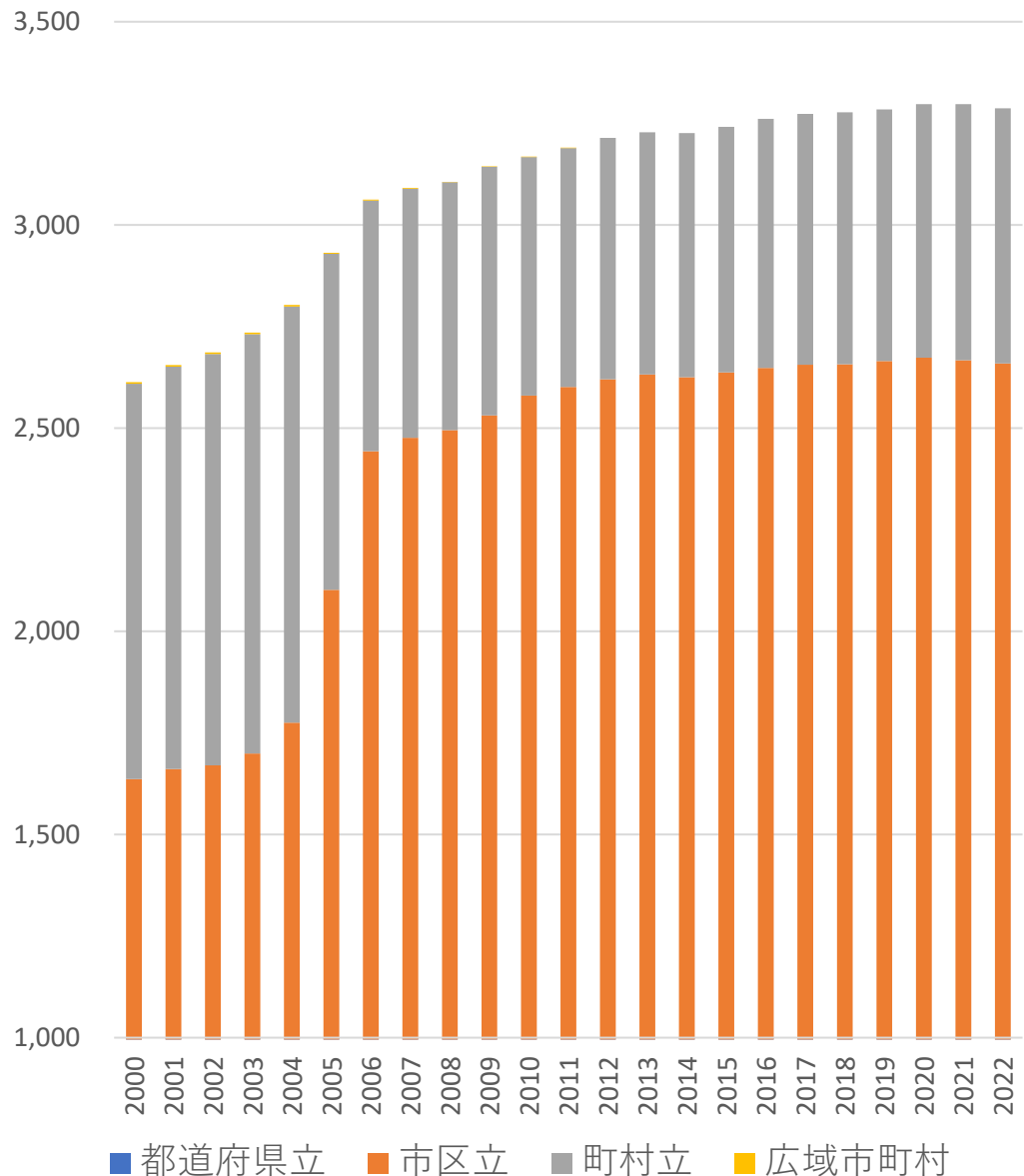
(「2015年「図書館と出版」を考える 新たな協働に向けて」
一般社団法人日本書籍出版協会 図書館委員会著・編)

◆ 図書館界と出版界が今後、共同して考えるべきテーマ、または、相互に共通して存在する課題などについてどのようなものがあると思いますか

- ① 図書館の選書 23%
- ② 図書館・書店・出版社の相互関係 61%
- ③ 行政（評価基準）問題 13%
- ④ 指定管理者制度 10%未満

公共図書館数の推移

今後の増加は、未設置町村での整備が進むかによる

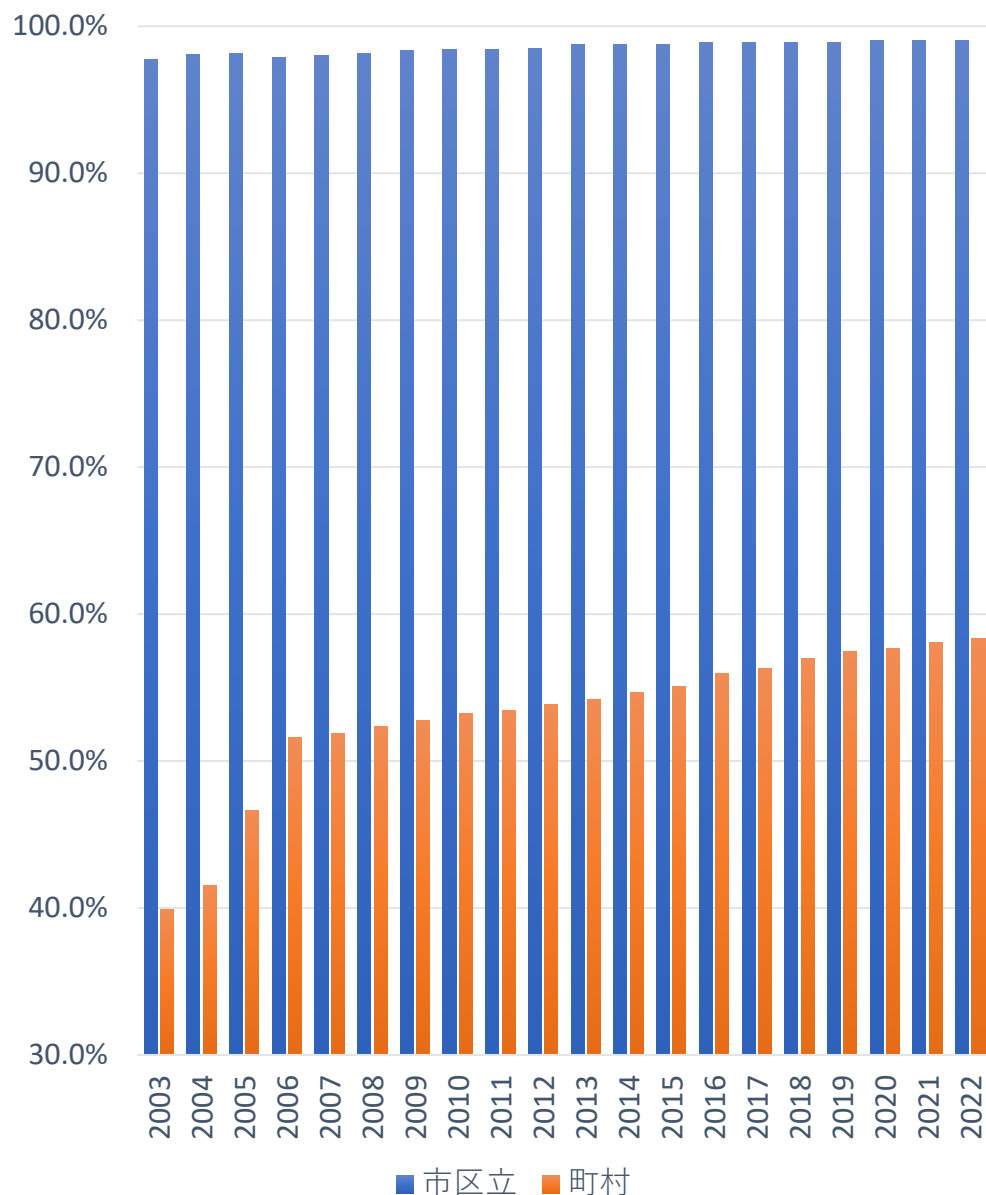


図書館設置率

町村は6割に届かず、
図書館・書店のない地
域が増えている

- ・ 図書館未設置市町村
382 (2023. 9)
- ・ 書店のない市町村
456 (2022年度)
- ・ 図書館も書店もない
町村 247

図書館と書店の連携に
よるアウトリーチが可
能か



図書館も 書店もない 町村

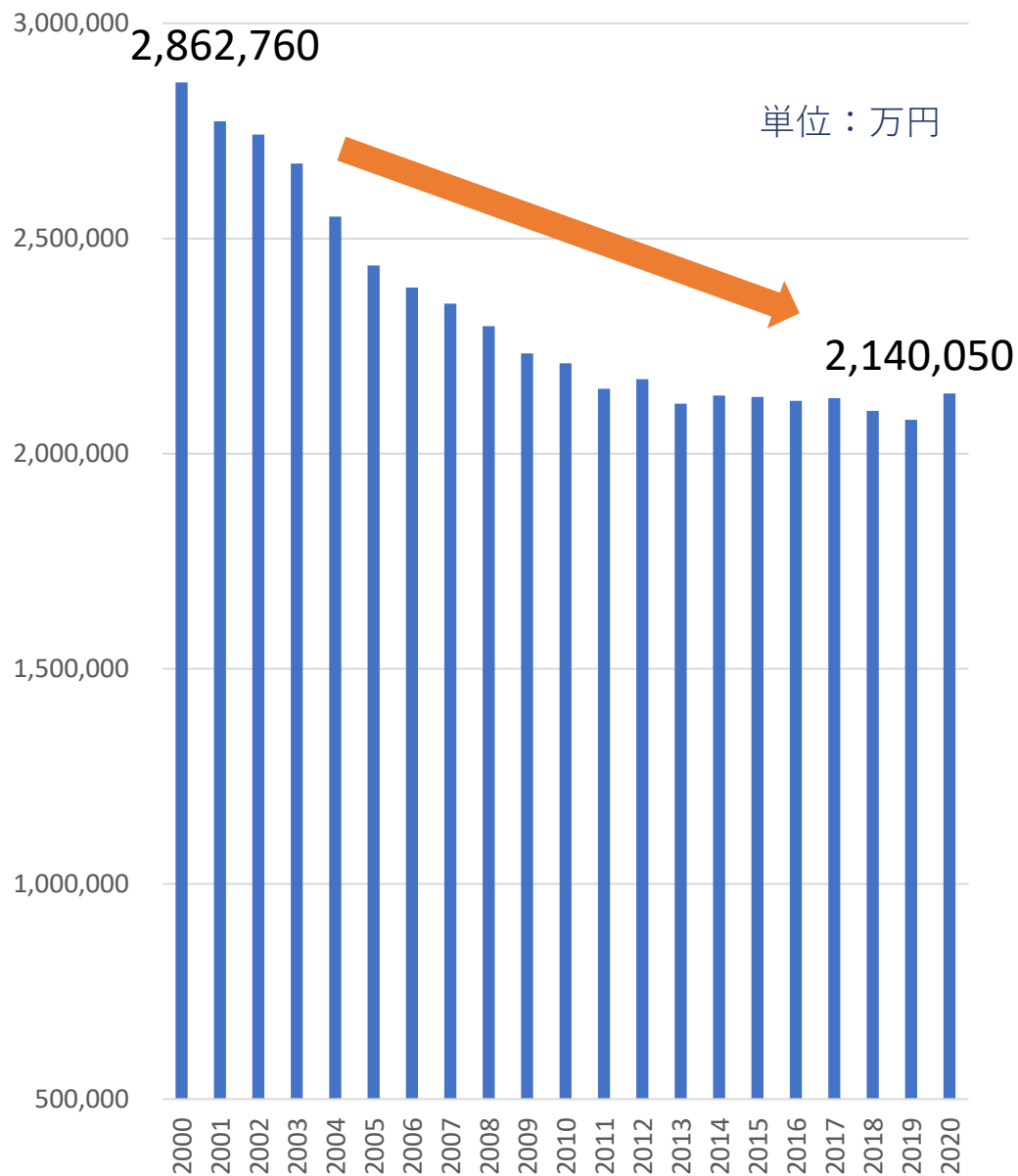
(都道府県別数)

247町村
26.7%
(247/926)

北海道	42	高知県	8	東京都	4	大阪府	2
福島県	19	山形県	7	岐阜県	4	佐賀県	2
長野県	18	群馬県	7	三重県	4	長崎県	2
沖縄県	16	和歌山県	7	京都府	4	埼玉県	1
奈良県	14	鹿児島県	7	茨城県	3	愛知県	1
熊本県	14	山梨県	6	新潟県	3	島根県	1
青森県	10	秋田県	5	徳島県	3	岡山県	1
宮城県	8	福岡県	5	宮崎県	3	山口県	1
千葉県	8	岩手県	4	神奈川県	2	大分県	1

図書館数は
増えている
が図書購入
費は減少し
ている

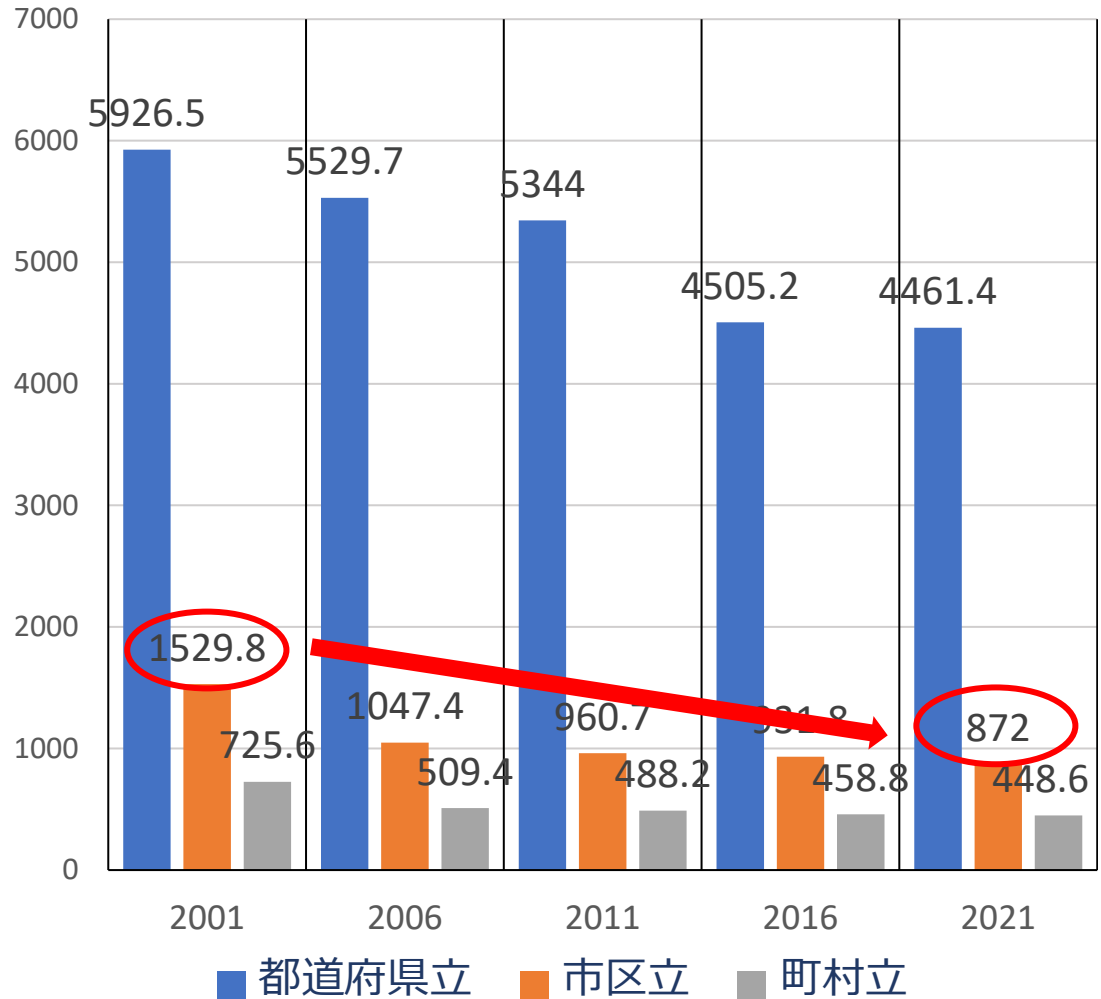
1館あたりの図書
購入費の減少



市区立図書館は20年間で約半減
(1館あたり資料費)

単位：万円

(資料費 + 臨時資料費) / 館数



年間図書 購入冊数

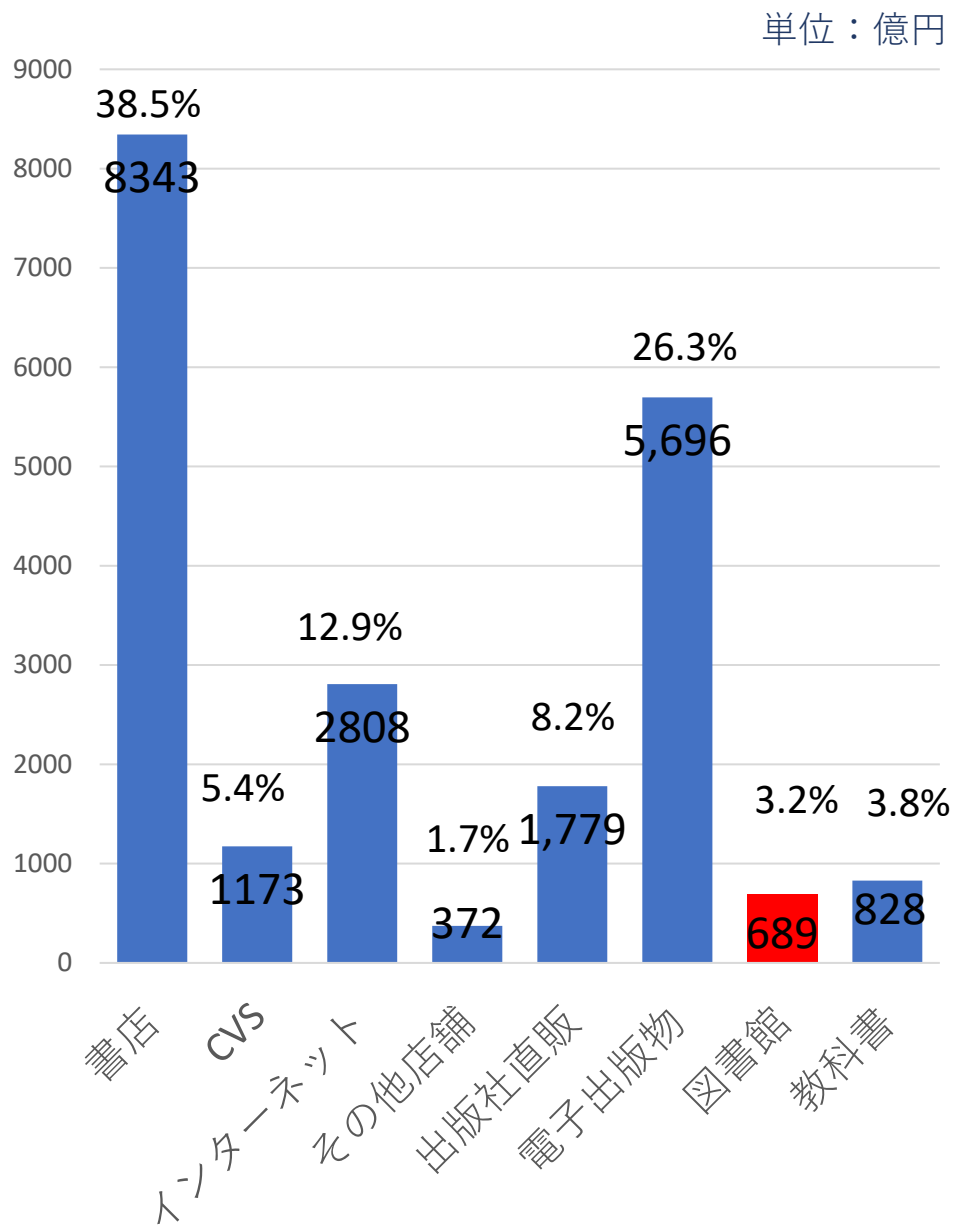
20年で約3割減



タッチポイント別市場規模 2021年度

図書館（公共・学校・大学・高専）
の内、公共図書館
は246.7億円

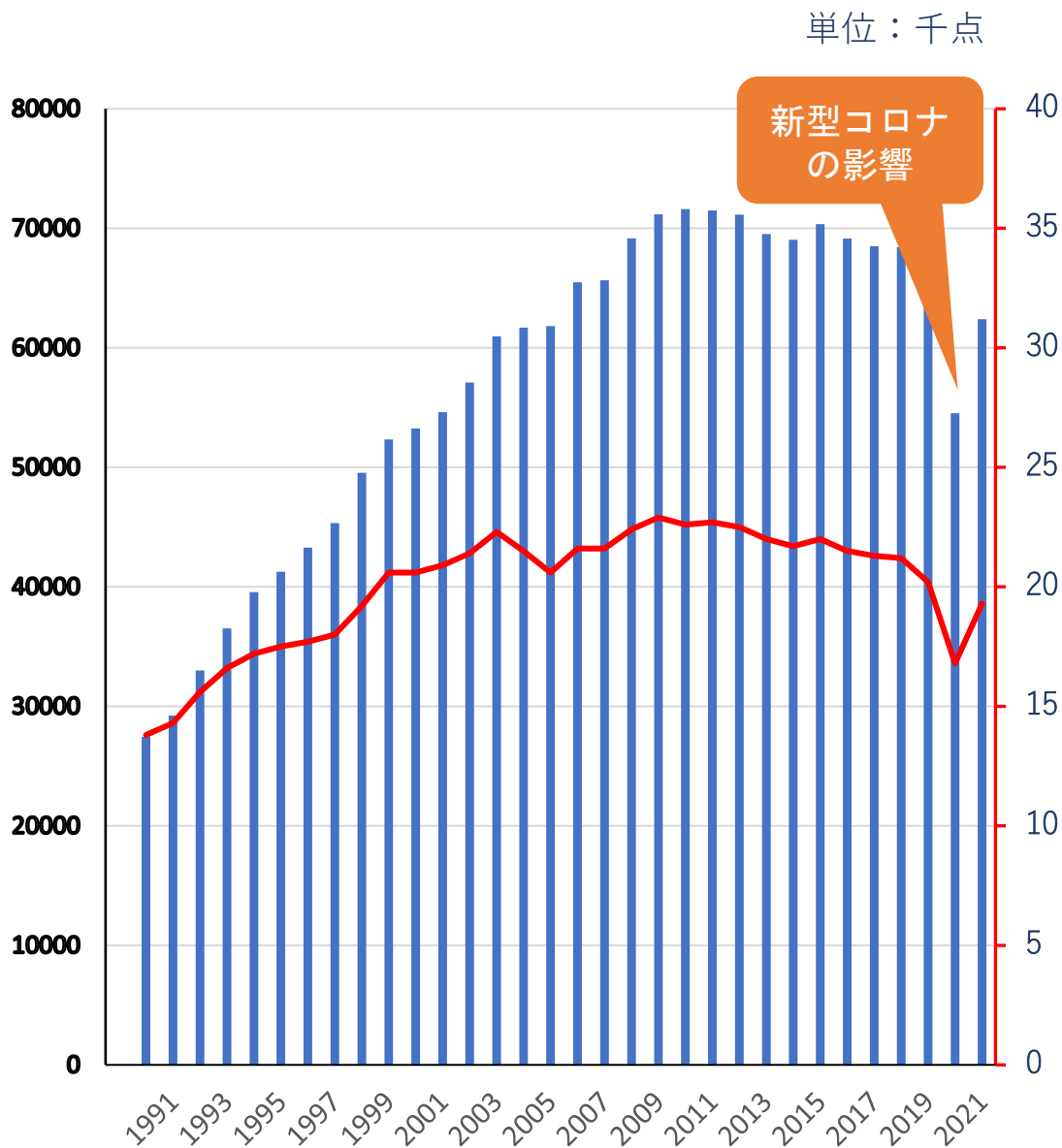
「出版物販売額の実態
2022」日本出版販売株式会
社より



貸出冊数は減少傾向

青：総数

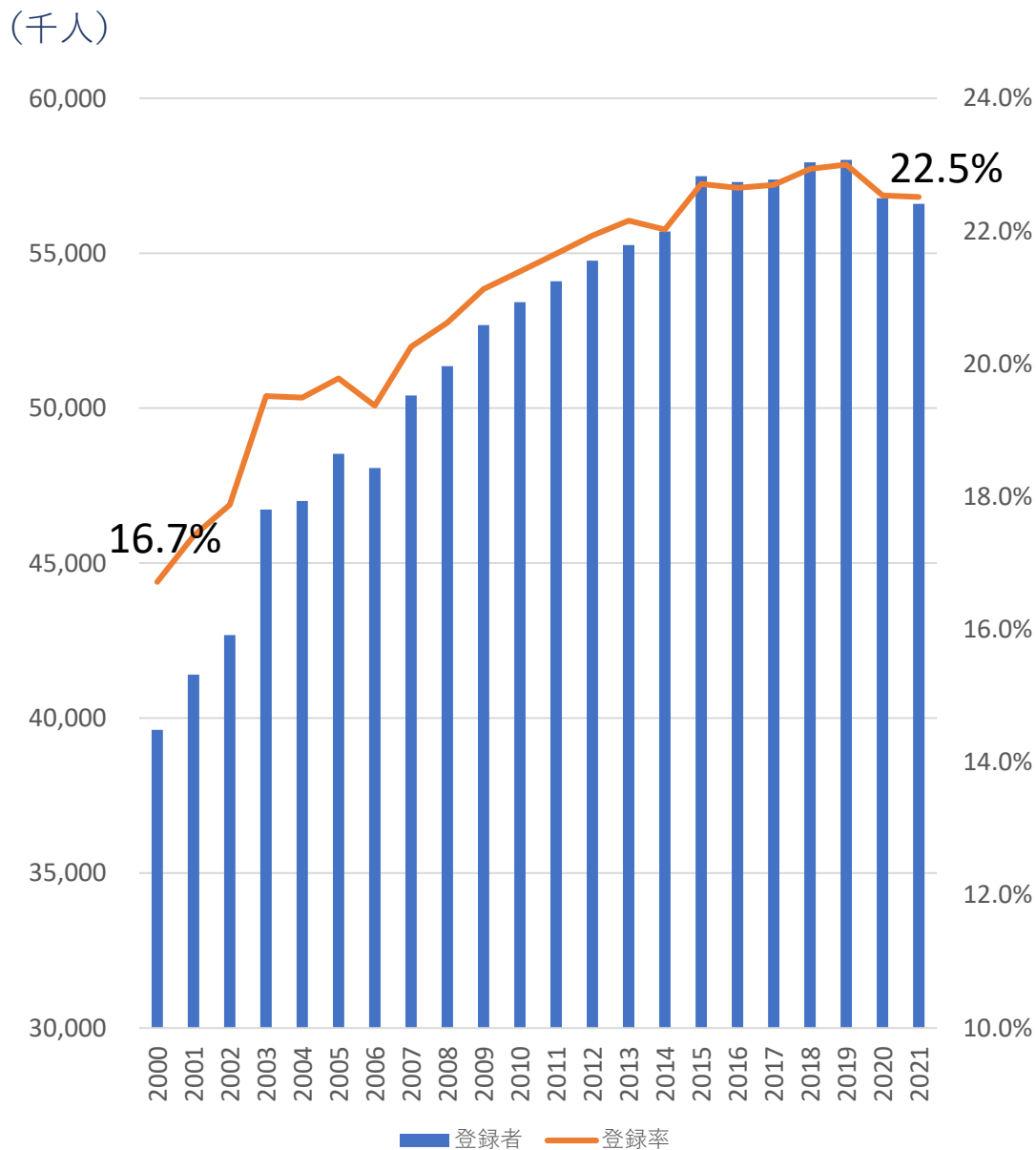
赤：1館当たり



本を借りる人は設置自治体人口の2割強

棒：貸出登録者数

折れ線：登録率



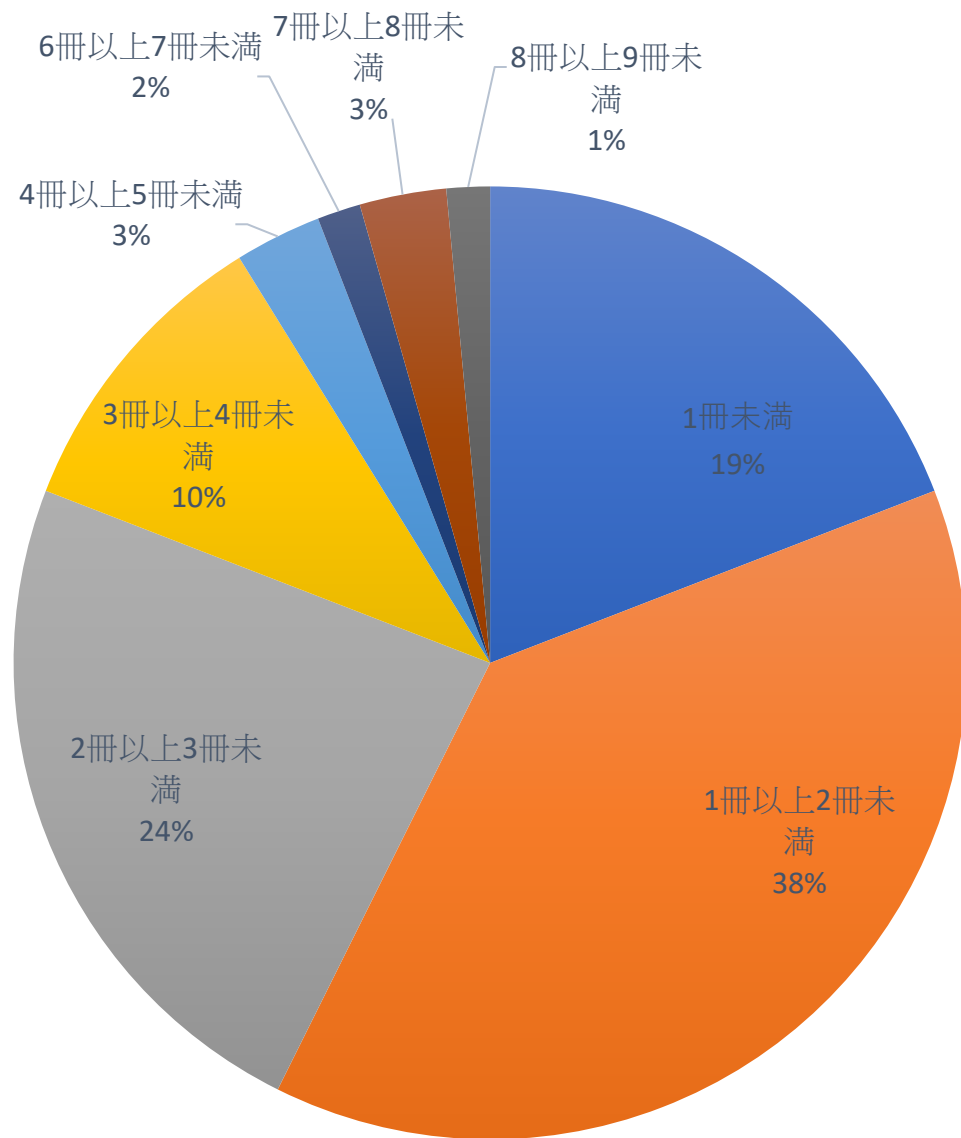
公共図書館アンケート 「図書購入及び貸出」

対象：人口30万人以上の公立図書館 計95図書館

アンケート期間：2023年2月7日から2月28日

回答図書館：68図書館（回答率71.6%）

※公共図書館部会長名で都道府県立図書館に依頼し、対象館からメール回答を得た。



ベストセラー複本は平均1.46冊

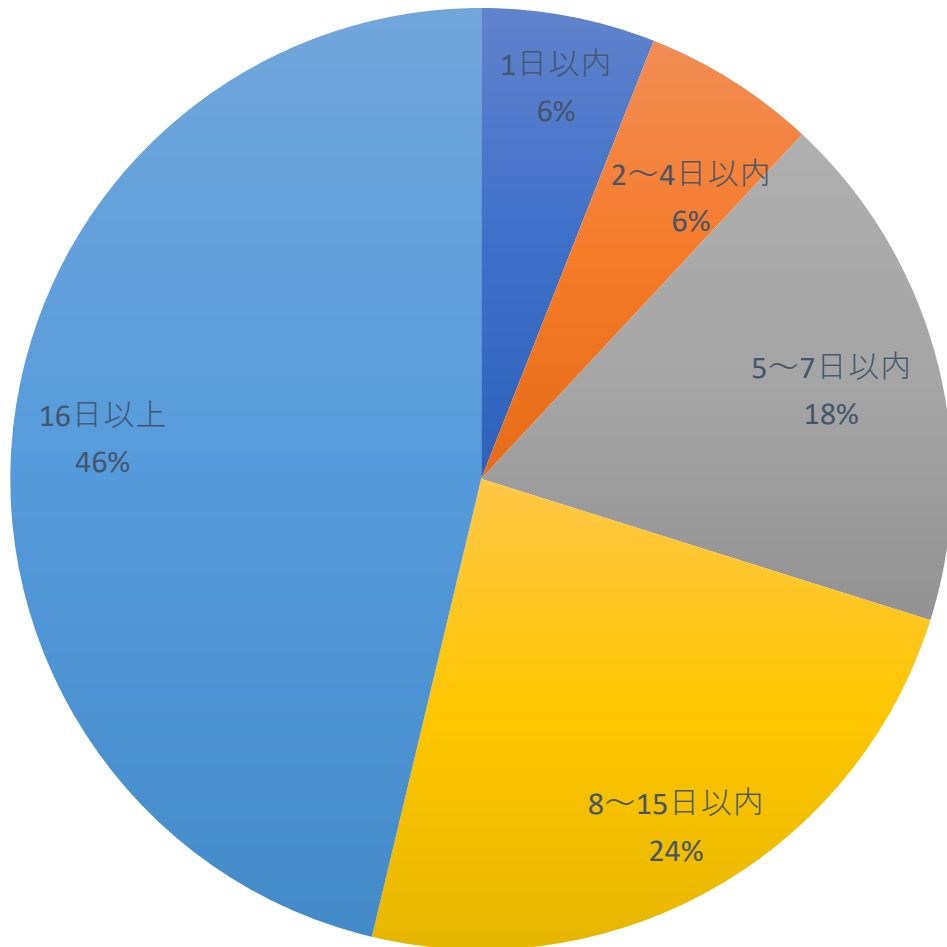
1館あたり複本冊数
『マスカレードゲーム』

「公立図書館貸出実態調査2003年 報告書」

日本図書館協会・日本書籍出版協会

文芸ベストセラー

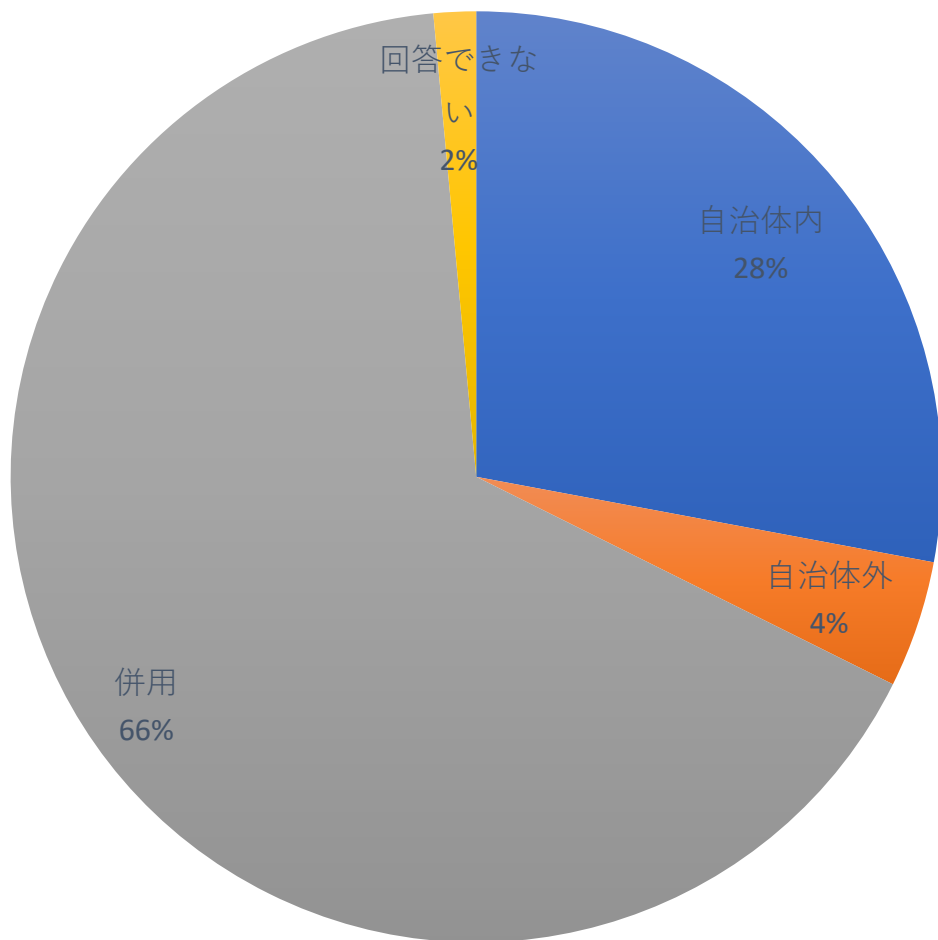
- ・ 政令指定都市 4.2冊
- ・ 特別区 2.6冊
- ・ 大規模市 3.5冊



資料提供 までの期間

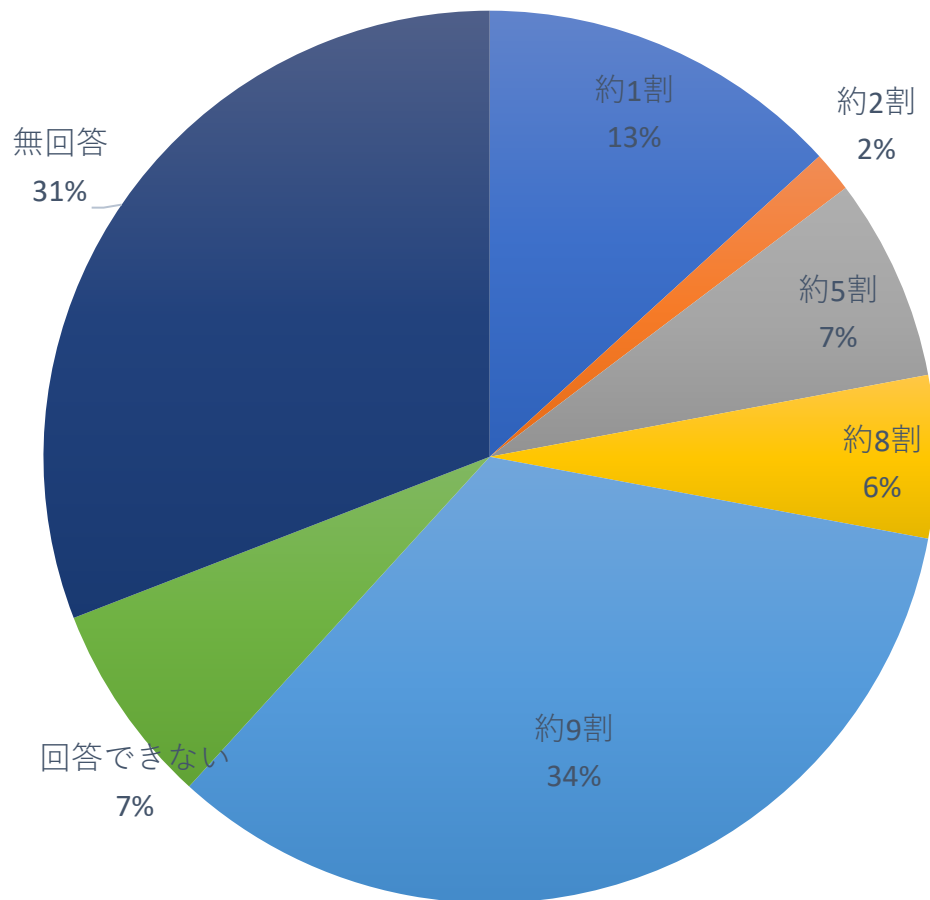
『マスカードゲーム』

約半数の図書館は提供までに半月以上かかる



自治体内の
みの購入
28%

約7割が自治体
内と自治体外と
で購入



併用の購入割合

約9割を自治体内で購入できている図書館は34%

信州しおじり 本の寺子屋

主旨

「信州しおじり本の寺子屋」は、塩尻市立図書館が中心となって、生涯読書を推進するために設置するものです。原型は、地域の人々の生涯学習と出版業界人の研修の場として、1995（平成7）年に今井書店グループが鳥取県米子市に開設した「本の学校」にあります。

本事業は、その精神を受け継ぐと共に、塩尻市が出版王国と言われる信州に所在し、日本の出版文化に偉大な軌跡を残した筑摩書房の創設者、古田晁の生誕の地であることに鑑み、講演会、講座等のさまざまな事業を通じて、「本」の可能性を考える機会を広く提供するものです。

活字離れと言われる昨今の状況に対して、著者、出版社、書店、図書館などが連携して本の魅力を発信し、出版文化の未来に寄与するために、図書館を「本の寺子屋」とし、読者も含めてここに集う人々の知恵の交流を促すことで、地方発の文化の創造と発信に挑戦したいと考えております。

「本の寺子屋」を進めれば進めるほど、「本を
読者に」という同じベクトルを持ちながら、本
を取り巻くネットワークと相互理解がいかに進
んでいないかを知ることになりました。そして、
それこそが、著者、出版社、取次店、書店、図
書館などが一体となって出版文化の発展に寄与
するための「本の寺子屋」の趣旨なのだという
思いに至ります。

伊東直登『「本の寺子屋」が地方を創る 塩尻市立図書館の挑戦』東洋出
版 まえがきより

第12 図書館員は、読者の立場に立って出版文化の発展に寄与するようつとめる。

出版の自由は、単に資料・情報の送り手の自由を意味するのではなく、より根本的に受け手の知る自由に根ざしている。この意味で図書館は、読者の立場に立って、出版物の生産・流通の問題に積極的に対処する社会的役割と責任を持つ。また図書館員は、「図書館の自由に関する宣言」の堅持が、出版・新聞放送等の分野における表現の自由を守る活動と深い関係を持つことを自覚し、常に読者の立場に立ってこれら関連分野との協力につとめるべきである。

図書館員の 倫理綱領

公益社団法人日本図書館協会